

■オーストリア：世界最大のグリーン水素プラントが運転開始

2019年11月19日付の報道によると、オーストリア第3の都市であるリンツ市において、鉄鋼大手フェストアルピーネ（Voestalpine）社などが所有する大規模水素製造プラントが運転を開始した。同プラントは製鉄所に併設され、鉄鋼生産の際に使用する化石燃料のグリーン水素への置き換えが目標となる。同事業ではSiemens製の最新鋭の水電解装置Silyzer 300が使用されており、その出力は6,000kWで世界最大となっている。同プロジェクトは、欧州連合から1,800万ユーロ（約20億円）の支援を受けて実施されるもので、H2FUTUREプロジェクトの一環として実施されている。H2FUTUREプロジェクトはカーボンニュートラルの実現を目指し、水素を産業規模で使用するうえでの有用性の検証が目的となっている。